

WHAT IS CLAIMED IS:

1. 内視鏡用縫合装置 comprising

内視鏡と、

少なくとも1つの尖端を有する穿刺部材と、

前記穿刺部材を保持して、かつ前記内視鏡の先端に着脱自在な保持部材と、

内視鏡に対して進退自在で、かつ組織を把持可能な把持部材と、

前記穿刺部材を移動させる移動部材とからなる内視鏡用縫合装置において、

前記穿刺部材は、先端側に向けて開口する開口部を有しており、

その開口部と前記内視鏡先端と前記保持部材に囲まれた処置用空間を形成しており、

前記把持部材は、前記処置用空間を通して前記開口部から突没可能となっており、

前記穿刺部材は、内視鏡の長手方向に対して横断する方向に前記処置用空間を移動可能となっていることを特徴とする。

2. claim 1 の内視鏡用縫合装置において、

更に、前記穿刺部材と係合可能な受け部材を有しており、

前記穿刺部材は、前記処置用空間に位置しない第1位置から、内視鏡の長手方向に対して横断する方向に前記処置用空間を横断する第2位置へと移動可能となっており、前記穿刺位置が前記第2位置に移動したとき前記穿刺部材と前記受け部材が係合することを特徴とする。

3. claim 1 の内視鏡用縫合装置において、

前記保持部材が変形可能となっており、前記処置用空間の範囲を変化させられることを特徴とする。

4. claim 1 の内視鏡用縫合装置において、

前記保持部材が、前記処置用空間を囲む第1包囲部材と、第2包囲部材を有しており、前記第1包囲部材と前記第2包囲部材が相対的に移動可能となっており、前記移動により前記処置用空間の範囲を変化させられることを特徴とする。

5. 内視鏡用縫合装置 comprising

生体組織を把持するための、内視鏡の長手方向に移動自在な把持部材と、
前記把持部材が把持した生体組織に穿刺される穿刺部材と、
前記穿刺部材を前記把持部材の移動方向と交差する方向に移動し、前記穿刺部材を前記生体組織に穿刺する穿刺部材駆動部材を具備したことを特徴とする。

6. claim 5 の内視鏡用縫合装置において、

前記穿刺部材と前記穿刺部材駆動部材は内視鏡の先端より突出して内視鏡の先端に備えられた第1の保持部材に備えられている。

7. claim 5 の内視鏡用縫合装置において、

前記穿刺部材駆動部材は内視鏡の先端より突出した第1の保持部材に備えられており、該第1の保持部材とは前記把持部材を挟んで対向配置された第2の保持部材を更に有する。

8. claim 7 の内視鏡用縫合装置において、

前記第1の保持部材は前記穿刺部材駆動部材の移動方向を前記把持部材と同じ方向にガイドするガイド部と、前記穿刺部材駆動部材の移動方向を前記把持部材の移動方向と交差する方向に変更する湾曲ガイド部と、を有する。

9. claim 7 または 8 の内視鏡用縫合装置において、

前記第2の保持部材には、前記生体組織に穿刺され、前記生体組織を貫通した前記穿刺部材と係合する受け部材が備えられている。

10. claim 9 の内視鏡用縫合装置において、

前記第2の保持部材は、前記把持部材から離れる方向に回転する。

11. claim 5 ～ 8 のいずれかの内視鏡用縫合装置において、

前記穿刺部材駆動部材は中空針であり、前記中空針の内径部には、前記穿刺部材が配置されている。